

## 乳幼児家庭の教育力向上事業について

### 1. 保護者向け啓発資料（リーフレット）・研修教材（親学習教材）の作成

#### (1) 啓発リーフレット

##### ○内容（案）

1～2ページ	非認知能力とは何か、その必要性について
3～4ページ	安全基地について
5～6ページ	乳幼児期（0～2歳ごろ）に伸びる力と関わり方のポイントについて
7～8ページ	幼児期（3～5歳ごろ）に伸びる力と関わり方のポイントについて 「目標に向かってがんばる力」「気持ちをコントロールする力」
9～10ページ	幼児期（3～5歳ごろ）に伸びる力と関わり方のポイントについて 「人と関わる力」

#### (2) 親学習教材（親学習ワークショップで使用する研修教材）

子育ての一場面を記した「エピソード」と、話し合いのポイントを記したもの。

子育ての「正解」を示すのではなく、参加者が登場人物の行動などを問題として感じるように作成。

これにより一人ひとりの参加者が自分の意見を持ち、主体的に学習に参加することを図る。

##### ○エピソードの内容（案）

がまんする	目標に向かってがんばる力
	ショッピングセンターでおもちゃを買ってほしいとねだる子ども（5歳）と困ってしまう母親。祖母の声かけによって子どもは気持ちを切り替えたものの、「がまん」をどう教えていいのか悩む親の姿を描く教材。
自信をもつ	気持ちをコントロールする力
	幼稚園でおにぎりを作ってきた子ども（5歳）が、自信满满で家でも作る。うれしく思う反面、もっとやりたいと言い出すのではないかと不安を感じている親の葛藤を描く教材。
かかわる	人と関わる力
	つどいの広場に遊びに来ている子どもたちが、他の子の使っているおもちゃをつかんだり、大人の助言を得て一緒に遊んだりする。子ども同士で遊ぶことや、大人から子どもへの声掛けなどに悩む親の姿を描く教材。

## 2. 人材の養成（養成講座）

### （1）基本編 ①7月30日

テーマ： 今注目の「非認知能力」とは？ どうやって育むの？  
～ 子どもたちの「非認知能力」を育む家庭教育を支援するために ～  
講師： 京都大学 大学院教育学研究科 森口 佑介 准教授

### ②9月2日

テーマ： 気になる子ども、保護者 どう付き合う？  
～ 子どもの『非認知能力』の育成に関わって ～  
講師： 常磐大学 人間科学部心理学科 秋山 邦久 教授

### （2）実践編（予定）

○11月28日 [幼児教育アドバイザー、保健師、民生・児童委員、家庭教育支援員を対象]

テーマ： 幼児期に育まれる力と家庭への支援方法について学ぶ  
(幼児期の特徴、非認知能力を育む関わり方、保護者への支援方法について)  
講師： 大阪総合保育大学 大方 美香 学長

○12月11日 [家庭教育支援員、保健師、民生・児童委員を対象]

テーマ： 訪問支援や相談活動の際に、子どもの非認知能力育成に視点をおいた、  
保護者への接し方、伝え方のポイント等を学ぶ  
講師： 女性ライフサイクル研究所 津村 薫 副所長

○1月 [保育士、保健師、民生・児童委員、家庭教育支援員を対象]

テーマ： 乳児期に育まれる力と家庭への支援方法について学ぶ（安全基地、アタッチメント）  
講師： 国立教育政策研究所 篠原 郁子 主任研究員

○2月 [司書、読み聞かせ活動関係者、家庭教育支援員を対象]

テーマ： 絵本を通じて育む、子どもの非認知能力について  
(親子のコミュニケーション、子どもの興味関心を広げる絵本の活用方法)  
講師： 未定

○1月から3月（全2回） [親学習リーダーを対象]

テーマ： 子どもの非認知能力について考える親学習新教材3種類について  
講師： 府担当職員等